からだとは・病とは(67)　効かない漢方薬(1)

鈴木斉観（斉観堂鍼灸治療院）

２月・３月と、「漢方薬を煎じてみよう」という講座を行った。2回とも約20人の受講者が集まった。こうした講座は初めてではないが、毎回、改めて準備をする。その中で私自身の漢方周辺への理解が深まる。今回は特に「効かない漢方薬」という問題点で深まった。

医師に処方してもらう漢方薬は通常、医療用エキス顆粒製剤である。思い通り処方して貰えれば、保険が効くから安く済む。医師が的確に判断して処方するという前提の下に制度はできているが、実際にはそうでなく、かと言って、なかなかこちらの思うように処方して貰えない。

そういう状況で漢方薬を使いたいと思えば、一つは漢方薬店での煎じ薬か、市販されている一般用の漢方製剤を購入するということになる。一時期、たまたま近くの調剤薬局で医療用を処方箋無しで購入（保険は効かない）できていたが、今は売ってくれなくなった。

だいたい一般の人は、漢方薬、例えば葛根湯に医療用と一般用という区別があるということさえ知らないのが普通だろう。医療用と一般用との違いは何なのか。それを調べてみると、漢方薬が効かない理由の一つが分った。

結論から言ってしまおう。漢方薬の基本は本来、煎じ薬で、何種類かの生薬を決まった分量で配合したものを煎じて、そのスープ（エキス）を通常、１日３回に分けて飲む。医療用エキス顆粒製剤はそのエキスを乾燥し、添加物を加えて顆粒にしてある。添加物の問題や乾燥されているという問題はあるが、ほぼ煎じ薬と同じ成分が入っている。ところが一般用では１日分の設定量が少なくされている。葛根湯、小柴胡湯、そして人参湯について調べてみると、葛根湯では医療用の２/３、小柴胡湯と人参湯では１/２である。

【葛根湯エキス顆粒製剤における比較表】

配合されている生薬と乾燥エキス	一般用1日（2回服用）分	一般用3回服用の場合（一般用÷２×３）	医療用1日（3回服用）分
葛根	2.64	3.96	4.0
桂皮	1.32	1.98	2.0
大棗	1.98	2.97	3.0
芍薬	1.32	1.98	2.0
麻黄	1.98	2.97	3.0
生姜	0.66	0.99	2.0
甘草	1.32	1.98	2.0
エキス	2.8	4.2	3.75

一般用での表記：「葛根湯エキス（2/3量）2.8gを含有」
医療用での表記：「乾燥エキス3.75gを含有」

そこで、ツムラに問い合わせてみたところ、次のような回答を得た。「（医療用と一般用の違いは）医療用医薬品が医師診察の上で選択され、かつ、用法用量も設定されるのに対し、一般用医薬品は患者様の選択で、どなたでも服用可能となっているところにあります。弊社では、この違いをふまえた上で、一般用医薬品の安全性を確保することを考慮し、１日の服用量を調整しております。」「その配合量は安全性の面と処方の特性に応じて 1/2～2/3 の範囲としています。」

薬毒一如。誤用されれば、薬は毒となるから一理はある。製薬会社としては効かないことよりも、問題が起きることの方が心配なのだろう。問題が起きれば、市販できなくなる。しかし、これでは正しく用いられても本来の必要量に足らない場合があり、効かないではないか。

一般用の漢方薬を効かせたかったら、つまりそれで病を治したいと思ったら、自己責任で医療用と同じ量になるように使えばよいということになる。ツムラの葛根湯であれば、指示には１日に１包２回とあるが、３回服用する。小柴胡湯ならば、１日に１包２回とあるが、４回服用するか、４包分を３回に分けて服用する。

これで一つの問題は解決した。

（2014年４月晴明）